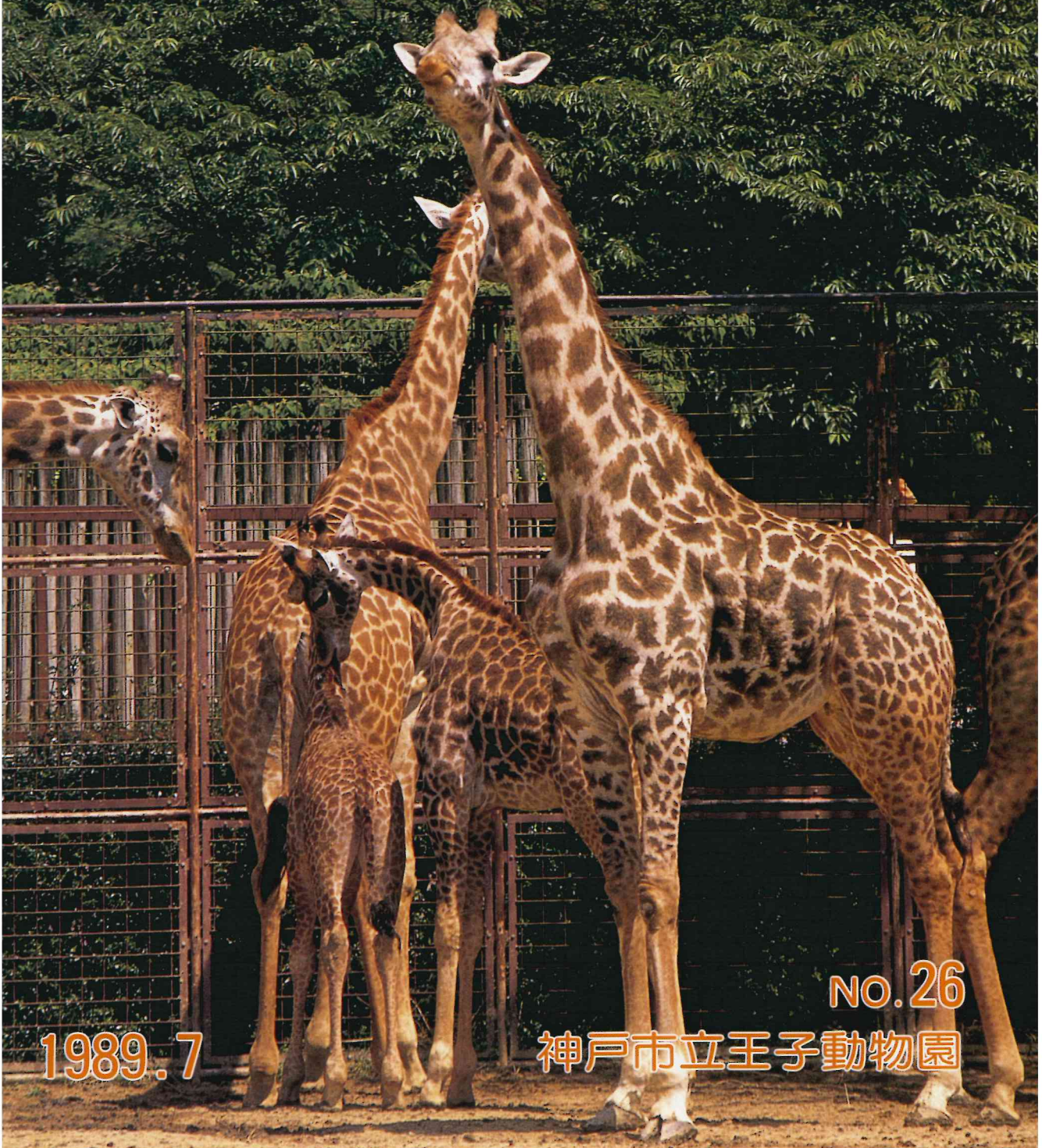


はばたき



1989.7

NO.26

神戸市立王子動物園

フラミンゴの育児に学ぶ

ことしもフラミンゴのひなが、たくさん誕生しました。大小さまざまなひなが、親の暖かい愛情につつまれながら大きく育っています。

毎年のことながら、このフラミンゴの育つ様子を見ていると、両親の献身的な育児に心をうたれるものがあります。フラミンゴは2月ごろから恋の季節に入り、あの美しいピンクまたは朱の色が一層鮮やかになります。人間と同じように恋の相手に少しでも美しく見せよう、と自然が与えた心使いなのでしょう。

やがて結ばれたカップルは巣づくりに励み、そして愛の結晶である1個の卵を生み、雨の日も風の日も夫婦交替で約1カ月間抱きつづけます。そして、白いうぶ毛に包まれたかわいいひなが誕生し、育児が始まりますが、これも夫婦が協力し合って子育てに専念します。両親とも胃から液状の分泌物を吐き戻して口移しにひなに与えます。この液体をフラミンゴのミルクと呼んでいますが、このミルクは栄養分が高く消化が良く、しかも真っ赤な色をしています。これは親のからだの赤い色素が含まれているのです。ひなは約1週間巣の上で暖かい親の羽の中で過ごしますが、時々羽の間から顔を出したり、親が立っている時に、親の足元で小さな羽をはばたかせている姿は実にかわいいものです。

約1週間を過ぎると巣から離れ動き回りますが、見るもの、触れるものが珍しく、次第に行動範囲を広げます。親は必ず側にいてひなを見守っています。こうしながら急速に成長し、えさも自分で食べるようになり、1年後には親と同じぐらいの体格になり、からだの色も次第に赤色を帯びてきます。しかし、こんなに大きくなっても赤いミルクを親にねだり、時々親からもらっています。一方、親のからだは鮮やかだった赤い色が薄れて白っぽくなります。すなわち、親の赤い色素がひなに奪われ、身も細つ

て大へんみすぼらしくなってきます。

このように、フラミンゴの両親は我が身を削ってもわが子が立派に育つよう献身的な努力をしているのです。フラミンゴだけではありませぬ自然に生きる動物や鳥たちすべてが、このようにして立派な子どもを育てているのです。

神戸市立王子動物園長 谷岡正之

も く じ

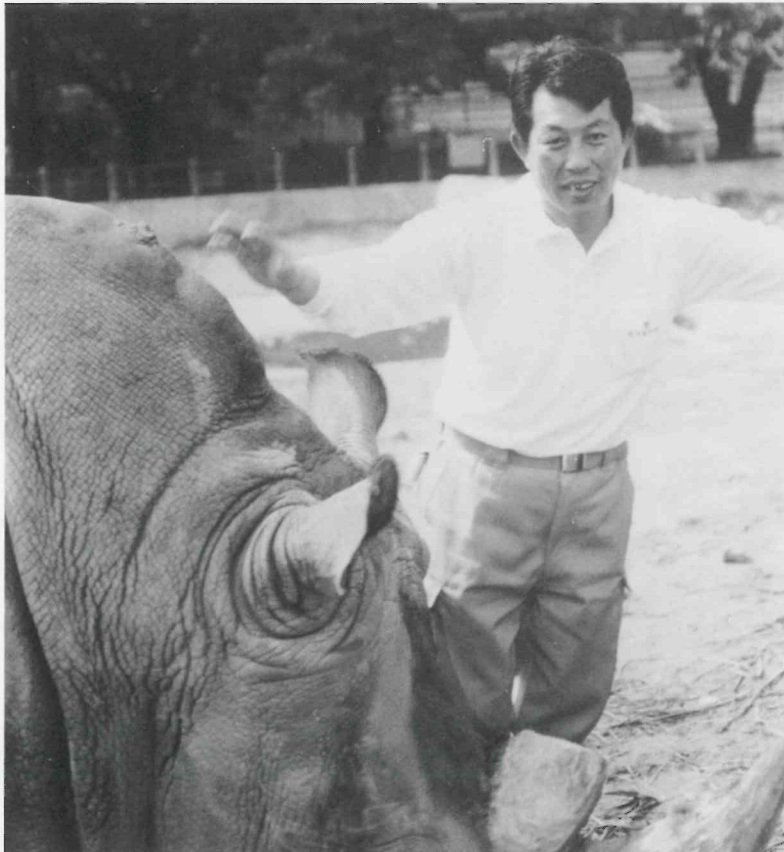
1. フラミンゴの育児に学ぶ…………… 2
2. 天津動物園から
研修生がやって来ました…………… 3
3. 動物育児日記…………… 5
 - ① クロハザルの子育て…………… 5
 - ② タンチョウの産卵…………… 6
4. 飼育うらばなし…………… 10
 - ① 王子キリン一家の家系図…………… 10
 - ② マガモの放鳥作戦…………… 11
5. 動物なぜなぜ問答…………… 12
 - ① 日本の猛獣はなんでしょう…………… 12
 - ② 親鳥は自分の子どもを
どのように見分けるのですか？…………… 12
6. 特別展もの知り手帳…………… 13
7. 動物科学資料館の手引き⑤…………… 14
8. トピックス…………… 15

表紙写真

(撮影 福田元二)

天津動物園から研修生がやって来ました。

王子動物園の印象と感想



王子動物園では、中国との友好都市、天津市の天津動物園と動物の交流を続けて来ましたが、今後ますます友好のきずなを強めるために動物の交流だけでなく、人の交流も始め、おたがいに野生動物の飼育技術を学び合ひましょうと約束しました。

このため、第1回目の動物飼育技術研修として、3人の天津動物園の方たちをまねき、3ヵ月間の研修を始めました。

天津動物園の皆さんは、毎日、王子動物園の飼育係の職員と和気あいあいと作業に、研修にはげんでいます。動物園での日中友好の仕事が神戸市民だけでなく、日本中に友好の輪が広がってほしいものと希望しています。

次に天津動物園からやって来ました研修生の皆さんの王子動物園研修中の感想や印象を述べていただきました。

(権藤真禎)

李宝忠（飼養隊長）

私達3人は、中国と日本の各友好都市動物園のなかで初めての研修生として、野生動物の飼育管理の勉強にやってまいりました。

実際に皆さんと一緒に仕事をして、大変良い印象を受けました。王子動物園の職員の方々は職業意識が強く、仕事熱心で動物を愛する気持が特に強いものであることが感じられました。

野生動物の飼育や繁殖技術を通じて、大自然のあずかりものである大切な野生動物を保護することについて、熱心に取り組んでおられることに深い感銘を受けました。

この研修で受け取った成果は、天津動物園を発展させるための良い経験と多くの手助けとなっています。

ここで学んだ多くのことを持ち帰り、同じ仕事をしている仲間同志の理解を深め、これからの日中友好、神戸・天津友好の増進、発展に努力したいものと思っております。



魏 金泓（獣医師）

両園の盛んな交流は、今一つの新しい領域に来ております。これは、皆さんから温かい配慮を受けながら王子動物園で研修していることです。

ここでは、野生動物の飼育管理に大切な飼料が、本当にうまく与えられております。病気の予防や治療について、これまでに得られた種々のデータが整理され、保存がキッチリ

されており、このデータをうまく利用されております。

私の研修目的は、こんど天津動物園に新しくできる動物病院での日常の仕事の質を高めるために、種々の医療器具を十分に使いこなす技術を持ち帰ることですが、科学的に裏打ちされた仕事をするための考え方を学び、現在、日本で取り組まれている種の保存、血統登録の実際のやり方なども学びとることです。動物達が健康で長生きし、次代に良い子孫を引き継ぐための努力をして、天津動物園を立派な動物園にしたいと考えております。

李昆明（畜牧助理）

4月26日に神戸にや
って来て、はや1カ月
が過ぎようとしていま
す。3カ月の研修期間
は短いものですが、
この期間に受けた有益
な経験は大変深いもの
があります。まず動物
達の飼料はバラエティ
ーに富み、それも各動
物達に対する栄養が科
学的に計算されている
ことです。動物達が子
供を増やし、次の代ま
で引き継がれていくよ



うにすることが私達動物園で働くものにとって一番重要な課題です。中国での動物の飼料について一歩一歩科学的に配合すること、数多くの品種を取りそろえるようにしなければならないと、痛感しております。それから、大変うらやましく思っているのは、王子には立派な動物科学資料館があり、子供達に野生動物の生きていくしくみをわかりやすく、種々の展示でなされていることです。中国の動物園では、まだどこにもない教育的施設や方法です。いつの日か実現させたいものと思っております。

動物育児日記

クロハザルの子育て



まず、クロハザルとはどのようなサルなのかを、簡単をお話しましょう。

クロハザルは、中国の広西省の南部及びベトナムの北部にだけしか住んでいない、とても珍

しい葉食猿の仲間です。別名、烏（カラス）猿とも呼ばれるように、全身が黒い毛で覆われ、頭のとっぺんの部分の毛がぴんととんがって立っており、ほほの部分の毛が白いひげのように見

えるのが、大きな特徴になっています。高山地帯の密林で樹上生活をしており、木の葉や木の皮を主に食べて暮らします。冬期に雄1頭に雌2〜3頭ぐらいで群をつくって繁殖をします。そして、このクロハザルが王子動物園にやって来たのは、今から9年前の昭和55年5月に、神戸市と友好都市である中国の天津市から第2次動物交流として、ペアで贈られて来たものです。このクロハザル夫婦は、仲は良かったのですが、年齢的なこともあったのか、なかなか子宝に恵まれませんでした。

交尾行動らしきことは、過去に1、2度確認した。しかし、いずれも出産までには至らず、私たち動物園関係者もやきもきする年月を送ってきていたのです。そして、来神8年目の去年の冬の寒さも少しゆるんできはじめて2月の下旬頃に、久々に交尾行動を確認することができました。今年こそは、かわいい赤ちゃんを、という気持ちで出産する日を心待ちにしていました。それでも、その後5ヵ月間は半信半疑でした。8月8日の朝、クロハザル舎に行ってみると、赤ちゃんザルが、母親の胸にしっかりと抱かれているのが確認出来ました。生れたばかりの赤ちゃんザルは、他の種類のサルにも良く見られるのですが、親ザルとはまったく違う毛色をしています。生れたばかりのクロハザルの赤ちゃんは、黒色ではなく全身金色といってもおかし

くないほど、美しい毛に覆われています。生れて2ヵ月ぐらいの間は、ほとんど母親の胸に抱かれています。それでも、このクロハザルの母親は、餌を食べる時などに、たまに、子ザルをほったらかしにするようなことがありました。そんな時（これは、他のサル類にはあまり見られないのですが）父親が「キーキー」鳴いている子ザルの所にとんで行き、まるで母親のように胸にしっかりと抱いて、子ザルの面倒をみます。そして、母親のところ連れて行く姿がよく見られました。そんな父親の姿を見て、私たちは「お乳がないだけで、母親とあまり変わらんなあ」と言っていたものです。そして、子ザルも成長するにしたがい、親から離れて行動する時間が増え、毛色も徐々に親と同じように黒く変わっていきます。それと、このクロハザルの赤ちゃんは、小さい時から私たちが通りかかると、金網にへばり付き「キーキーキヤキヤ」と声を出して相手になりに来ては、私たちがちょっと手を出すと、とんで逃げる、ほんとおもしろい子ザルです。今では、部屋の出入りも1人(?)でし、日に日に自立心も旺盛になってきている。今日この頃です。

(佐々木稔蔵)

タンチョウの産卵

夕方、タンチョウの好物であるドジョウを持って舎内に入る、ファーファーと空気をはき出すような声を出し、持っているバケツに突然攻撃してきた。

そうだ、この攻撃は産卵の前ぶれだ、それにしてもいつもの年より15日も早い。産卵は、日照時間に深く関係があるといわれているが、今年はや暖冬で、早く産卵するのでは?と思いつつ早速ヨシズをカッターで小さく切って舎内に入れることにした。

私の感が当たったのか、タンチョウ夫婦は、巣材を入れた翌日から巣作りを始めた。

見ていると、オスがくちばしで巣材のヨシズをメスの所に持って行き、それをメスがうまく修整して巣作りにはげんでいる。時にはメスが座りこごちを試している状態が見られる。やがて、メスが長時間巣上に座り、清掃に入っても

座ったままで動こうとしない。

これは、「産卵しているなあ……」。早く確認したい、こんな気持ちでいっぱいでした。

午前中の仕事を終え、観察していると運よくメスが立った、すると巣の中には、1個の卵が産み落とされていたのでした。

タンチョウの卵は重さ250g程で、ニワトリの卵の約4倍、全体が薄いグレーで茶色の斑点があります。

昭和51年、中国天津動物園よりもらったタンチョウ夫婦が死んでしまい、今度その子供が産卵したので皆の喜びようは大変なものでした。

「よし、この卵がうまく「フ化」してくれよ……」。中国からももらったタンチョウが後世まで残せる、そんな気持ちが頭の中をよぎりました。

タンチョウはかならず2個産卵するが、「フ化」して2羽が育つのがまれで、途中で1羽が死ん



でしまいます。

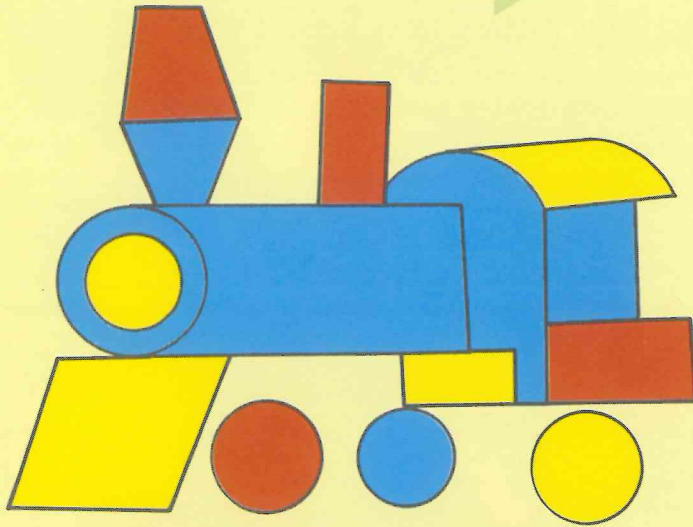
1番目のひなが「フ化」して、2番目の「ひな」が「フ化」する間隔は1～3日、見ていると、先に生まれたひなが実に元気で高い声を出しながら親鳥に餌を要求します。親鳥もそれにこたえるかのように、先に生まれた「ひな」にたくさん餌をやりませう。そして後から生まれたひなには餌を与える回数が少ないため、しだいに弱って死んでしまうことがあります。また、ひなどうしが「フ化」後1週間を過ぎる頃になると大げんかをします。くちばしで突く、くわえて引き倒す。見ているとひやひやします。このすさまじい闘争に両親は無関心です。今までに王子動物では7羽のタンチョウが無事に育ちましたが、2羽がう

まく育ったのが1例だけです。

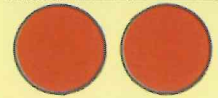
昭和59年にひなが生まれてから、その後、「フ化」していません。今年はなんとか繁殖させたい、そんな気持ちで観察していると、オスがうまく抱卵していない、もしかしたら昨年と同じように無精卵でダメかもしれない、そんな気持ちになってきた。ところが、その不安をふき飛ばすかのように、もう一方のカップルが産卵したのでした。タンチョウを飼い始めて13年、二つのカップルが産卵したのは初めてのことです。

今年は5年ぶりにかわいいひなが皆様の前にお目見えするかもしれません。そんな気持ちで今日も雨の中での観察を続けています。

(鈴木 忠)



ニホン

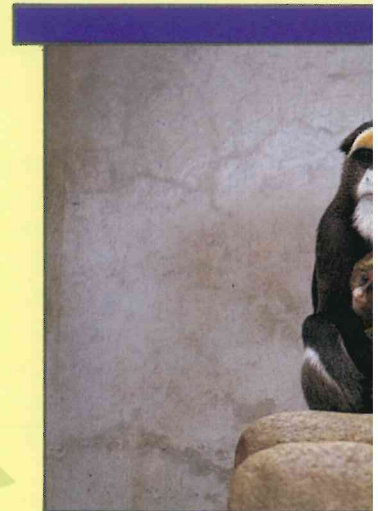
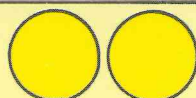
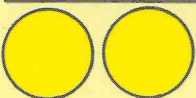


みんなな

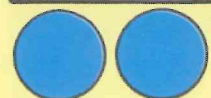
今年生まれ



エミュー

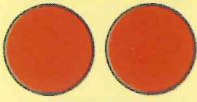


プラッ

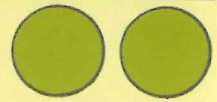
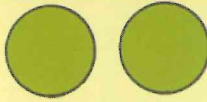




クマ



マガモ

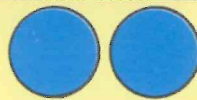


た 気 だ ヨ ウ

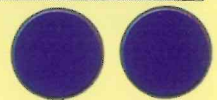
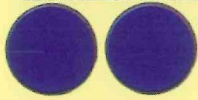
た 仲 間 た ち



エノン



タンチョウ



飼育うらばなし

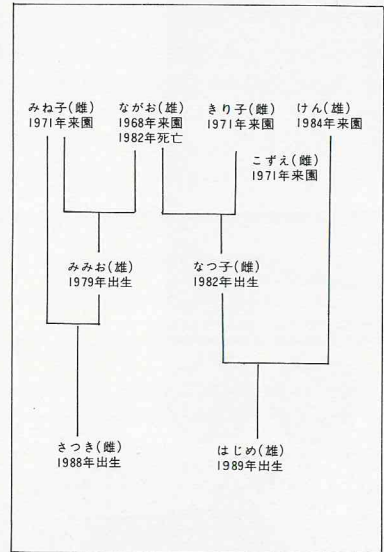
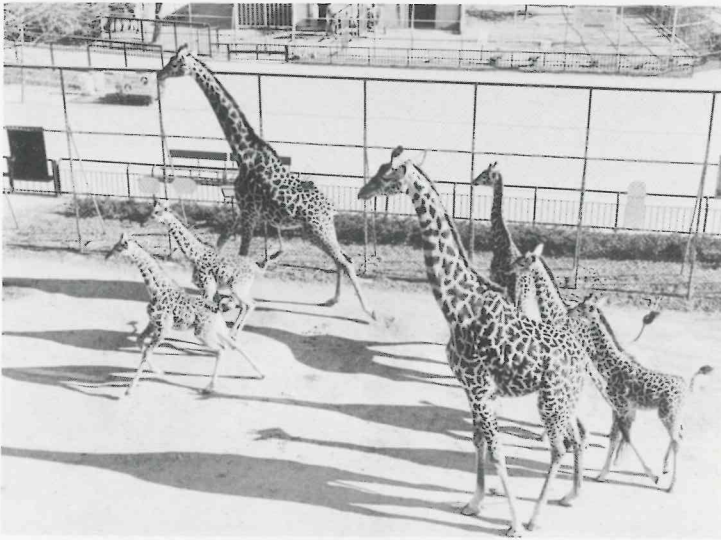


図1 現在飼育中のマサイキリンの家系図

王子キリン一家の家系図

王子動物園では、確実な血統管理を行うために、各動物別に家系図を作っています。

この中で今回は、当園で飼育しているマサイキリンの家系を紹介するとともに、繁殖および子どもの死亡、転出についてお話しします。

1. 家系

マサイキリンの飼育は、1967年から開始しました。この年に来園したのは、2才の雌「たか子」で、翌年には2才の雄「なお」が来園しました。

初めての出産は1973年で、その後1982年までの10年間は、「たか子」「きり子」「こずえ」「みね子」の4頭の雌で順調な繁殖が見られていました。しかし、1981年に雌の「たか子」が死亡し、その翌年には雄の「なお」が死亡したため繁殖が見られなくなりました。そのため、1984年に宮崎のフェニックス自然動物園から2才の雄「けん」を導入した結果、1988年から再び繁殖が見られるようになりました。

当園では、現在8頭のキリンを飼育しており、その家族構成は図1に示したように、「きり子」の家系とみね子の家系に別れています。「きり子」の家系は、「きり子」とその子の「なつ子」、「なつ子」と「けん」との間に生まれた「はじめ」から形成されています。「みね子」の家系は、「みね子」とその子の「みみお」、「みね子」と

「みみお」との間に生まれた「さつき」によって形成されています。「こずえ」には現在のところ子どもはいませんが、来春に出産する予定です。

2. 出産と子の死亡

初めての出産は1973年で、それから1989年までの17年間で28回の出産が見られました。

キリンには出産期はなく、一年中繁殖可能な動物です。当園においても、図2に示したように10月と11月を除いて、全ての月に出産が見られています。

子どもの死亡は、生後1カ月以内に多く見られています。特に母親にとって初めての出産である場合には、育児の経験がないためか、子どもが死亡することが多いようです。

3. 転出

当園で生まれたキリンの内15頭は、各動物園にもらわれていきました。表1に示したように、国内では、南は熊本から、北は札幌まで転出しており、海外では、韓国に3頭、中国には4頭転出しています。

今後も各動物の家系図を作り、近親交配の回避等の血統管理を充実し、種の保存に努めていくつもりです。

(兼光秀泰)

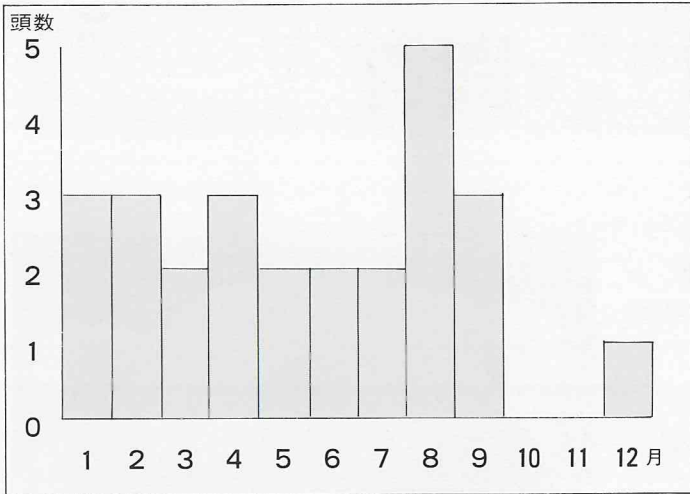
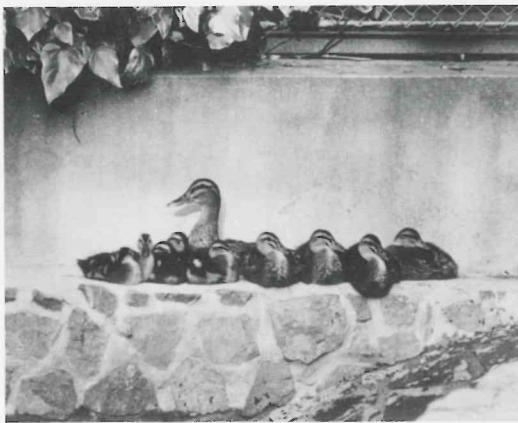


図2 1973年から1989年における月別の出産数

個体名	出生年月日	性別	転出先と子の死亡
たか子	1973年8月12日	雌	生後7日目に死亡
1967年11月14日來園	1975年1月30日	雄	中国天津市へ転出
1981年3月5日死亡	1975年9月27日	♀	流産
	1977年2月7日	雌	死産
	1978年7月6日	雄	熊本動物園へ転出
	1980年4月11日	雌	韓国龍仁自然動物園
きり子	1974年6月22日	雄	生後2日目に死亡
1971年11月8日來園	1975年12月22日	雌	1976年2月に死亡
	1977年8月7日	雄	白浜アドベンチャー
	1979年1月16日	雄	韓国龍仁自然動物園
	1980年7月2日	雌	中国天津市
	1982年8月1日	雌	現在飼育中(なつ子)
	1988年3月19日	雄	死産
こぞえ	1975年2月21日	雄	札幌円山動物園
1971年11月8日來園	1976年9月2日	雄	仙台市八木山動物園
	1978年4月11日	雌	熊本動物園
	1979年5月20日	♀	早産
	1980年9月2日	雄	韓国龍仁自然動物園
	1982年5月19日	雄	宮崎サファリパーク
	1988年3月9日	雄	生後19日目に死亡
みね子	1974年6月28日	雄	1975年2月に死亡
1971年11月8日來園	1976年1月17日	雌	中国天津市
	1977年8月13日	雄	白浜アドベンチャー
	1979年2月22日	雄	現在飼育中(みみお)
	1980年8月1日	雄	中国天津市
	1982年9月3日	雄	姫路セントラルパーク
	1988年5月25日	雌	現在飼育中(さつき)
なつ子	1989年4月3日	雄	現在飼育中(はじめ)
	1982年8月1日出生		

表1 マサイキリンの繁殖歴



マガモの放鳥作戦

日本にはたくさんの渡り鳥がやってきますが、最近ではその数もだんだん減ってきているようです。そこで、なんとか当園で繁殖させて自然にかえしてあげたいと思っています。

今年の2月から水禽舎内を改造して、中にいる鳥たちを日本にやってくる渡り鳥に替えました。現在では、オオハクチョウ、ハクガン、マガモ、オシドリ、オナガガモなどを飼育しています。マガモは3年ほど前から毎年5～6月に10羽前後繁殖しています。

この繁殖したマガモは、秋まで大事に育てて森林植物園の近くの池に放鳥しているのですが、なかなか自然の池では厳しく、イタチやネコなどの天敵がいて、全部が育ってくれません。現在では、14羽が住みついているようです。

今年は水禽舎を改造し、環境が変わっているので、繁殖してくれるか心配でしたが、3月の初めから巣穴に羽や木の葉などを入れ、産卵し

てくれて安心しました。

5月の初め、かわいいヒナが8羽フ化しました。それから10日後には、別のヒナが8羽フ化しました。全部でヒナが16羽に増え、大変喜んでいましたが、長雨に当たったり他の鳥に追いかけられたりして、7羽が死んでしまい、9羽が元気に育っています。このヒナ達も、秋ぐらいには、今年から大きな貯水池に放そうと思っています。しかし、ダム自体が新しくして餌が豊富でないのが心配ですが、木がたくさん茂っているため、すみかとして鳥達には最高の場所だと思います。なんといっても、初めて行くことには気がつかない。水禽舎の中には、今年からオシドリ用に巣箱を2個設置しているので、うまくいけば、来年には繁殖してくれるでしょう。

何年か先には、たくさんの野鳥が神戸市内の野池や貯水池に飛来してくれれば大変幸せです。また、そうなるように、皆さんも応援してくださいね。

(関 和也)



— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●日本の猛獣は何でしょう

日本列島にはネコ科の猛獣はいませんが、ヒグマ（北海道）とニホンツキノワグマの2種類がいます。

クマは世界に次の8種類がいます。

ホッキョクグマ（北極海）

ヒグマ（アラスカ、シベリア、日本）

ハイイログマ（北アメリカ）

アメリカクロクマ（北アメリカ）

ツキノワグマ（東アジア、日本）

マレーグマ（マレー）

ナマケグマ（アジア赤道附近）

メガネグマ（南アメリカ、アンデス東部）

このように、世界にわずか8種類いるうち、2種が、せまい日本列島にいるのです。

クマは雑食性で果物、木の実、魚、小動物、昆虫と何でも食べます。

性格は、姿や顔の可愛さに似ず、荒々しいところがあって、北海道のヒグマは時折人間を襲い負傷者をだしています。また、クマは冬眠するといいますが、ヒグマも、ツキノワグマも12月～1月という冬に巣穴で子グマを生み育てます。

神戸でもヒグマ12回、ツキノワグマ（ヒマラヤ産）3回、冬のさなかに子グマが生まれています。

つまりクマは冬眠というよりは冬ごもりといった方が正しいのです。

（亀井一成）



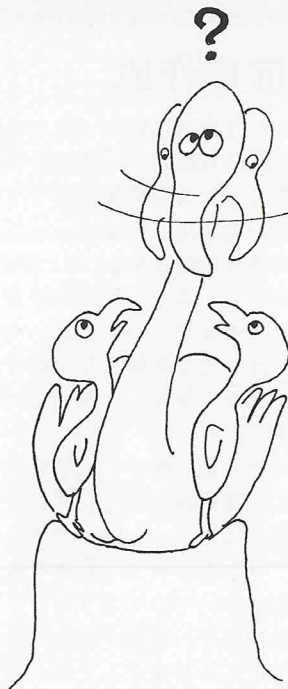
●親鳥は自分の子どもをどのように見分けるのですか？

人間の目からは、どれも同じように見える鳥のヒナ。でも、親鳥はちゃんと自分の子どもを知っています。顔に違いでもあるのでしょうか。それとも、においかな？

さまざまな実験を行って、どうやらヒナの出す声が決立しているらしいということがわかりました。ヒナはふ化する前、すでに卵の中から鳴いています。親鳥はそれを自分の子どもの声としておぼえるようです。例えば、ヒヨコをガラスの箱の中に入れ、鳴き声が聞こえないようにした時、姿は見えるのにその親は知らん顔しています。

先日、王子動物園のフラミンゴ池で、おもしろい光景が見られました。他の巣から迷い込んだヒナを、自分の子どもと一緒に抱いた親がいたのです。ところが、迷い込んだヒナが餌をねだった時、何度も顔は近づけるのですが餌をやらなかったのです。「顔は似てるんやけど、どうも声が違う感じやなー」とでも思っていたのでしょうか。

（村田浩一）



特別展もの知り手帳

～なんでも知っちゃお!～



動物の足あとを追ってQ&A

野生動物との自然界での出会いは、足あとなど、動物が残していったものからはじまるのではないのでしょうか。そこで、今回はキリン、サル、トラの足あとを特別展示室の床に描き、これを入館者が追って行き、途中、壁面にある6カ所の動物に関するクイズに答えていくような手法を導入して、動物に関する知識を深める特別展を催しました。

展示方法は、動物の体表模様、鳴声、表情、糞などをパネル、レプリカ、はく製などで表現し、子ども向きの分かりやすいものにしました。

登場動物はトラ、キリン、ゴリラ、カモシカ、ゾウ、ヒョウ、オランウータン、アナグマなど30種です。鳴声のコーナーでは、パネル展示されている4種類の動物のうち1種類の動物の音が聞こえてきます。これを、正しいと思う動物のパネルの番号を押し、正解になると正解音が鳴る仕組みになっています。意外性がある、なかなか人気があります。また、サルの足あとを追っていくとボックスがあり、その中に入ると鏡とゴリラの5つの表情がパネル展示されます。入館者がこのゴリラの表情に合わせて自分の表情を変えて、動物にも喜怒哀楽があることを知っていただき、また、表情の変化を楽しんでいただくコーナーもあります。

いちばん子供達に人気があり、子供連れのおじいさん、おばあさんに喜ばれるのはトラのコ

ーナーです。トラの足あとを追って行き、暗いボックスに入ると、センサーが探知して自動的に前面にあるトラのはく製がほえ、同時にライトが光り、一瞬、目の前に口を開いた大きな実物のトラが闇の中から現われるようになっていきます。子どもたちは驚き、叫び、手を振って後ずさりし、その後、喜びます。おじいさんは孫の驚き、喜ぶ姿を見て満足して帰っていきます。その他、キリンの足あとを追っていき、最後のボックスに入ると、テレビに入館者自身の頭が映ります。最初、このコーナーは年配で頭髪の退化した方に悲哀を感じさせるコーナーかなと思います。これがキリンから自分を見た時の姿だと分り、キリンの大きさを実感させられます。また、プレーリードッグ、モグラ、アライグマの地中生活を説明したクイズもあり、動物の生態知識を高める役割も果しています。

全体的には親子の対話が多くなるコーナーであり、狭い展示場を広く感じさせる特別展です。

入館者の評価は、ただ単に展示されたものを見るコーナーと違って、特別展に参加できたといった実感があり好評です。我々も計画段階では遊びのない、単純なものになるのではないかと考えていましたが、意外と人気があり、今後もこのような方法を導入した特別展を行いたいと思っています。クイズの正解はコーナーごとに設け、知識の向上に努めています。



動物科学資料館の手引⑤

～楽しく見るために～

◆動物とその社会③ 身を守る

自然の変化や外敵の危険から身を守るため動物にはいろいろな行動がみられます。今回は動物たちがどんな知恵を発揮して身を守り生きているか、ちょっとのぞいてみましょう。

1. 動物のいろいろな群れ

動物は群れをつくったり、単独でくらしたりそれぞれその動物に合った、くらしやすい形で生きています。ここでは、飛ぶ鳥の群れ、躍動する獣の群れ、泳ぐ魚の群れをスライドと臨場感あふれるボディソニックを使った音響で紹介します。

群れのつくり方には大きく2つあり、1つは結婚のためにつくられる群れです。アシカなどは繁殖期になると力の強い大きな1頭のオスがたくさんのメスを集めてハーレムをつくりませんが、結婚がすめば群れでなくなります。もう1つは、子育てと身を守ってくらししていくためにつくられる群れです。ゲラダヒヒはリーダーのオスを中心に数頭のメスが集まったグループがさらにいくつか集まり、バンドという群れをつくります。又、ライオンはオス2～3頭、メス5頭とその子どもたちからなるプライドという群れをつくり、ハイエナは色々な年齢層の雌雄混合のクランという群れをつくります。このように群れをつくるメンバーは、動物の種類によってさまざまですが、これらの場合、長い間群れを続けるために統制され、身を守りながら仲よく暮らせるしくみになっています。

では、なぜ動物は群れをつくるのでしょうか。それは群れている方が安全でかつ効率がよく、暮らしやすいからです。例えば群れている方が、多くの目や耳があり危険を早く知ることができ、安全性が高まります。また、狩りは群れて協力する方が効率がいいわけです。動物は意味もなく群らがついているのではないのです。

2. かくれる

天敵の餌食にならないためには、まず「見つからない」、「つかまらない」ようにしなければなりません。ここでは動物がいかにうまく姿をくらし、かくれるかを紹介します。

まず、かくれ方の第一歩は、まわりのように体の色や模様を似せることです。ライチョウは冬になると雪と同じ白色になります。次に、いくら周りに体を似せても、動き回ったのでは敵に気づかれやすくなります。シカの子は、敵が近づいてくると草やぶに伏せて動かなくなります。また、シマウマの縞は一見目立ちますが、群れになると模様が重なって敵のねらいを定めにくくさせる効果があります。



このように、動物は長い進化の過程でそれぞれ適した体の色や形になってきたのです。

3. おどす

動物の中には敵をおどして攻撃的な防衛をはかるものもあります。おどしの方法はさまざまで、ゴリラは胸をたたきドラミングをすることにより敵におどしをかけます。又、ヤマアラシは、ふだん寝かせている針毛を逆だて「カシヤカシヤ」という音を出すなど巧妙な手を使います。このように少数ですが何らかの武器をひけらかすなど、攻撃的な方法で身を守っている動物もいるのです。

(山本範子)

トピックス (平成元年3月～6月)

◆春の催し

- **クイズラリー (3月25日～4月7日)**
クイズを通じて動物をじっくり見ていただこうと、園内の6ヵ所にクイズを設け、全問正解者 100名の方に記念品を贈りました。応募者5,585人。
- **春休み動物映画大会 (3月29日～4月7日)**
連日約300人の親子でにぎわいました。
- **異人館の内部公開**
園内にある神戸最大の異人館・旧ハンター住宅の内部を一般公開しました。

◆動物科学資料館・特別展 (3月25日～7月9日)

「足あとを追って!」～迷路でたどるQ&A～
動物の足あとを中心に、鳴き声やフンなど動物をさがす手掛かりとなるものを取り上げ、その見分け方や役割などをクイズで紹介。
今回は、遊びの要素を取り入れた「動物さがしゲーム」で楽しみながら学べるものになっています。

◆フラミンゴ繁殖技術の研究論文が表彰 (5月25日)



王子動物園では、昭和58年からフラミンゴの繁殖に取り組み、種々の新しい試みを行ってきました。この度、その成果をまとめた研究論文が日本動物園水族館協会から優秀論文として表彰されました。

◆タンチョウに5年ぶりの赤ちゃん

春は動物たちのベビーラッシュの季節。
園内のあちこちで赤ちゃんが続々誕生し、今、子育ての真っ最中です。
主な繁殖動物タンチョウ、フラミンゴ、ラマ、エミュー、キリン、ヨザル、シュバシコウ、カラゴ、マガモ、レッサーパンダ

◆二一八オ!!中国・天津動物園の仲間が来園

神戸市と友好都市である中国天津市の天津動物園から3名の飼育技術者が研修のため来園しました。天津動物園とは昭和51年から動物交流を続け、数多くの実績があるが、長期的な「人の交流」は今回が初めて。

飼育管理や動物の栄養管理など日本式の動物管理を勉強して7月17日に帰国しました。

◆動物を計る会 (6月4日)

計量の日になんで毎年開催しているもので、今年はシンリンオオカミとトカラ馬でした。

当日の入園するには応募用紙で投票してもらい、来られない人にはハガキで応募を受けました。

結果は、シンリンオオカミ36kg、トカラ馬 273kg合計 309kgで応募総数2025人の中から正解者(1人)をズバリ賞、その他近いで賞、残念賞の表彰を行いました。

◆動物の絵ハガキとテレホンカードができました。

絵ハガキ

「王子の動物たち」(人気のある動物たち)「わたしとお母さん」(親子のほほ笑ましい姿)各 300円
オリジナルテレホンカード

カリフォルニアアシカ・トラの親子の2種類。各 800円・2枚組セット1600円



切手の中の動物たち ① サルの仲間



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭

①シフッカ(マダガスカル) ②サバンナモンキー(セントキッツ島) ③キンシコウ(中国) ④マンド
 リル(ギニアビサウ) ⑤ガラゴ(中央アフリカ) ⑥ゴールデンラングール(ブータン) ⑦リスザル
 (スリナム) ⑧アココロプス(ケニア) ⑨シロテテナガザル(ベトナム) ⑩サバンナヒヒ(カメル
 ーン) ⑪マウンテンゴリラ(ルワンダ) ⑫チンパンジー(シエラレオーネ) ⑬ブルーモンキー(モザン
 ビーク) ⑭ボウシテナガザル(タイ)

◆編集後記◆

平成元年度は、王子動物園にとっても記念すべき元年度になるでしょう。今年度から動物園拡
 張整備5カ年計画がスタート。「動物とこどもの国」建設のため各種の調査・設計、コアラの導入
 準備が始まりました。

今年は忙しくなりそうで職員一同うれしい悲鳴をあげています。素晴らしい動物園になるよう
 張り切っていますので、ご期待ください。



はばたき 第26号

平成元年7月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
 TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
 TEL. (078)801-5711
 神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社